



打ち鳴らし、
舞い魅せる。



江戸時代から伝わる伝統 芸能「表佐太鼓踊り」

10月2日(日)表佐地区で「表佐太鼓踊り」が3年ぶりに開催されました。

「表佐太鼓踊り」は江戸時代初期、南宮大社に雨乞いをして太鼓を打ったのが始まりといわれ、雨乞いの願いが成就すると、お礼に太鼓を打ち感謝の気持ちをも太鼓踊りとして奉納したと伝えられています。

太鼓の大きさは直径約1mから1.3m、重さ約60kg。

10月とは思えない暑さのなか、若人たちは太鼓を腹にくくりつけ、額には光る汗、音頭にあわせ力強く舞い太鼓を打ち鳴らしました。その姿は実に勇壮で観る人を魅了し、秋晴れの空に、太鼓の音が響き渡りました。